

最終更新日	2017年(平成29年)3月1日
-------	------------------

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
--------	-------	------------

## 2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表

### I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

### II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。しかし、「分かる授業の創造」「家庭学習習慣の定着」「あいさつ」「地域貢献」の目標が達成できていない。校内研修での指導法の工夫改善、各学年での取組の工夫改善を図り、取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。

### III 中学校区

#### 1 めざす子ども像

じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒

#### 2 研究主題及び主な研究内容

小中一貫教育による主体的な学びの創造

- ・児童生徒に育みたい資質、能力を明確にした授業実践、交流

#### 3 現状(成果及び課題)

##### (1) 児童生徒

○広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果、城北中学校区は、概ね県平均を上回っているが、小学校、中学校とも、領域別では、国語の書くこと、算数・数学の図形、理科のエネルギー領域に課題がある。

○家庭学習頑張り週間を設け、振り返りをさせたり自主学習を進んでできるように手だてをしたりしたことで、家庭学習に取り組む時間が増えてきている。

○毎月1回、あいさつデーとして児童生徒が中心となりあいさつ運動に取り組むことで、あいさつをする児童生徒が増えてきた。「自分からすすんで挨拶する」「大きな声であいさつする」ことが課題である。

○地域行事へ参加しようとする意欲は向上してきているが、参加率が十分ではない。目的意識を持たせるとともに、地域との連携を一層進めていく必要がある。

##### (2) 授業

○校区合同研修会を中心に教科指導の系統性を意識しながら教材研究を深め、授業を参観し合い協議することで学力向上に向けた取組みが進んでいる。

○児童、生徒の丁寧な学力分析を行い、指導案等においてつけるべき能力育成の視点から授業を組み立てる等、つけるべき資質・能力育成に向けて更なる授業研究を進める必要がある。

### IV 自校

#### 1 学校経営方針

##### (1) 学校教育目標

自ら学び、豊かな心でたくましく生きる子どもの育成

##### (2) 自校の使命(ミッション)

夢を持ち、その夢を実現することを通して社会に貢献できる児童の育成

##### (3) 自校の将来像(ビジョン)

- ①基礎基本の学力を身につけ、自ら学び考える児童を育成する学校
- ②自他を大切にし、ルールを守って安心して自分の力が発揮できる学校
- ③掃除が行き届き、きれいで落ち着いた学校
- ④家庭、地域とともに歩み、信頼される学校

#### 2 研究主題及び主な研究内容

ともに考え、学び合う授業の創造

～J(じっくり考える)H(はっきり表現する)K(くり返し挑戦する)をふまえて～

- ・自分の考えを持ち、学び続ける児童を育てる授業の創造(社会)
- ・コミュニケーション能力の素地を養う授業の創造(外国語活動)

#### 3 現状(成果及び課題)

##### (1) 児童生徒

・全国学力学習状況調査では、県平均を上回ったが、「基礎・基本」定着状況調査では、県平均に達しておらず、基礎基本の学力が確実に定着できていない。

・学校の約束を守る、無言清掃の達成率は91%であるが、「あいさつ」「無言清掃」の取組を充実させ、徹底させていく必要がある。

・地域へのやさしい行動、ボランティアは、高学年は目標を達成できたが、低学年が達成できていない。地域行事への積極的な参加を意識づけていくことが課題である。

##### (2) 授業

・授業の始まり5分間を工夫した授業作りを意識して進めることができるようになってきた。しかし、つけるべき資質、能力を明確にした授業作りや導入から振り返りまでの45分間を見通した授業づくりが課題であり、日常的に授業改善を図る必要がある。

#### 4 めざす授業の姿

- ・ねらいが明確で、45分間を見通した授業
- ・全ての児童が、振り返りを書き、次時の見通しが持てる授業
- ・全ての児童が、一日に1回は、自分の思いを発言できる授業

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点 目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	10月1日		2月末		総合評価
								尤也 評価	達成 評価	尤也 評価	達成 評価	
確かな学力	1	基礎基本の定着と主体的な学びの育成	☆	新規	① 授業改善を図り、基礎基本の学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な授業づくり研修会を実施する。(導入、ねらい、主発問、振り返り)(年3回以上)</li> <li>帯タイム(スキルタイム)で、漢字・計算問題に取り組む。</li> </ul>	国語、算数の単元テストの通過率を、90%以上にする。	3	3	3	4	4
					② 家庭学習習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ががんばり週間を実施する。(年5回)</li> <li>家庭学習の手引、自主勉強のすすめ、がんばりカードの活用</li> </ul>	設定時間以上家庭学習する児童を90%以上にする。	3	2	4	4	4

豊かな心	1	主体性の育成	見直し	③ 規範意識を育て、積極的なあいさつができる児童にする。	児童会目標の設定と振り返りカードの活用を行う。 (毎月)	学校のルール(あすなろ)を守っている児童を90%以上に する。	<input type="checkbox"/> 学校のルールを守っている児童は、90.4% (あいさつ94%、スリッパ91.5%、名札94%、ろうか82%)であった。  <input checked="" type="checkbox"/> 目指す姿として、「自分から」「立ち止まって」「大きな声」でのあいさつとする。児童会が手本を見せ、あいさつ名人を認定する。この取組を通して、学校全体のあいさつへの意識を高めていく。	4	3	<input type="checkbox"/> 学校のルールを守っている児童は、91.2% (あいさつ96%、スリッパ93%、名札94%、ろうか82%)であった。  <input checked="" type="checkbox"/> 児童会を中心にあいさつ名人の取組を進めた結果、あいさつへの意識が高まり、大きな声であいさつができるようになってきた。  <input checked="" type="checkbox"/> 名札強化週間の取組を通して、98%の児童が名札を付けることができた。  <input checked="" type="checkbox"/> 児童会目標と学級目標を一致させ、児童に意識させ、肯定的評価を行うことで徹底させる。	4	4	4
			☆ 見直し	④ 主体的に考え行動できる児童にする。	縦割り班掃除を実施する。 (振り返りカード)	黙って時間いっぱい掃除ができる児童を90%以上に する。	<input type="checkbox"/> 黙って時間いっぱい掃除ができる児童は、94%であった。  <input checked="" type="checkbox"/> できていない児童にどのような声かけをするか、どのような掃除の工夫をするかなどをリーダーに考えさせて実行する。  <input checked="" type="checkbox"/> 児童同士で声かけをしていくことを通して、「黙って時間いっぱい掃除」があたりまえになるようにする。  (振り返りカードの活用)	4	4	<input type="checkbox"/> 黙って時間いっぱい掃除ができる児童は、94%であった。  <input checked="" type="checkbox"/> 6年生(リーダー)を中心に、掃除分担の明確化、振り返りカードの活用、掃除名人等の肯定的評価により、黙って時間いっぱい掃除ができる児童が増えた。  <input checked="" type="checkbox"/> 学級掃除でも、「黙って時間いっぱい掃除」が定着してきた。  <input checked="" type="checkbox"/> できていない児童に対して、6年生が個別に指導・助言し、一緒に掃除をすることで意識を高めていく。	4	4	4

			見直し	⑤ 進んでやさしい行動ができる児童にする。	やさしさ貯金を実施する。 (ボランティア、地域行事への参加)	地域行事に1回以上参加する児童を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏祭り(3・4年)、敬老会(6年)を中心に参加した。自主的に一斉清掃や公園のトイレ掃除に参加した児童もいる。</li> <li>◎地域行事について情報提供を行い、積極的に参加できるように声をかける。後期は、フェスタ、しめ縄づくり、餅つき、とんどなどに参加する予定である。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域行事(フェスタ、しめ縄づくり、餅つき、とんど)に年1回以上参加した児童は、100%であった。</li> <li>○公民館と連携して、地域行事について情報提供を行い、積極的に声をかけた。(自主的に、一斉清掃、資源回収や公園のトイレ掃除等に参加する児童も増えた。)</li> </ul>	4	4	4
健やかな体	1	たくましく生きる体力向上の推進	新規	⑥ 目標をもって体力づくりができる児童にする。	朝体育を実施する。学年重点目標を設定し、課題改善に取り組む。	新体力テストにおいて、県平均を上回っている項目を70%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県平均を上回った項目は、70.8%(68/96項目)であった。</li> <li>◎ステップアップカードを活用し、児童に、自己目標や達成のための手立てを考えさせ、体力づくりに取り組ませる。</li> <li>◎体育の準備体操やサーキットトレーニングに、長座やダッシュを取り入れる。</li> <li>◎職員研修を行い、指導方法についての共通理解を図ったり、取組の進捗について交流の場を設けたりする。</li> <li>◎学年重点目標と取り組み方法を設定し、体育の時間に、関連する運動を意図的に取り入れる。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県平均を上回った項目は、70.8%(68/96項目)であった。</li> <li>○ステップアップカードに個人目標を記入させ、体力づくりに取り組ませることができた。</li> <li>○体育のはじめに走の運動や柔軟運動などのサーキットトレーニングを実施するなど、設定した学年重点目標に沿って、計画的に取り組むことができた。</li> <li>◎進捗状況の確認を定期的に行っていく。</li> </ul>	3	4	4

力量のある教職員	1	授業力の向上	☆	新規	⑦ 自ら考え学ぶ授業を創造する。	つけたい力を明確にした授業実践を行う。	外国語活動、社会科を中心に、単元でつけたい力、本時のねらいを明確にした授業研究を行う。(100%)	<input type="checkbox"/> 1学期に7学級中、4学級で外国語活動の研究授業を行った。外部講師を招聘し、場面設定や活動など指導法について指導を受けた。 <input type="checkbox"/> 事前に指導案検討や模擬授業を全体で行うことを通して、研究授業の内容をより充実させるとともに、事後協議において活発な意見交流が行われるようにする。	4	4	<input type="checkbox"/> 2学期に2学級で外国語活動、1学級で社会科の研究授業を行った。全学級が単元でつけたい力、本時のねらいを明確にした指導案を作成し、授業研究を行った。 <input type="checkbox"/> 外部講師を招聘し、授業法についての指導を受けた。 <input type="checkbox"/> 複数回のシミュレーション授業(模擬授業)を実施し、授業改善を行った。 <input type="checkbox"/> 外国語活動参観日を設定した。 <input checked="" type="checkbox"/> 「年間を通してつける力」「重点となる単元」を明確にした授業実践を行う。	4	4	4
					授業評価シートにより授業分析を行う。	授業評価シートの肯定的評価を90%以上にする。	<input type="checkbox"/> 1学期に行った授業研究では、外国語活動の平均評価は3.85、肯定的評価は、96.3%であった。 <input type="checkbox"/> 指導案作成の際に主活動の必然性を熟考し、活動を通して友達との関わりを楽しんだり、友達についての新たな気づきを促したりする。 <input type="checkbox"/> 外国の生活や文化などについて知る活動場面を設定し、日本との違いや共通点、それぞれの良さに気付かせる。 <input type="checkbox"/> 本時の到達目標を明確に示すことを通して、目指す姿を児童と共有し、評価規準を意識した授業展開を行う。	4	4	<input type="checkbox"/> 2学期に行った校内授業研究では、外国語活動の平均評価は3.7、肯定的評価は、91.4%であった。年間の評価平均は3.75、肯定的評価は93.9%であった。 <input type="checkbox"/> 指導案検討や模擬授業を通して、主活動の必然性について追究することができた。 <input type="checkbox"/> 外国の生活や文化などについて知る活動場面を設定し、日本との違いや共通点、それぞれの良さに気付かせることができた。 <input type="checkbox"/> 本時で目指すゴールの姿を児童と共有することで、評価規準を意識した授業を行うことができた。 <input type="checkbox"/> 社会科の理論研修を進め、授業研究を深めていく。	4	4	4	

市民からの信頼を高める学校	1	地域から誇れる学校の推進	継続	⑧ 学校への信頼を向上させる。	学校、学級の取組み、児童の様子を発信する。 (学校便り、学級通信、家庭連携等)	保護者アンケートで、肯定的評価を90%以上にする。	□6月に実施した保護者アンケートの結果、「学校の取り組み」の5項目の肯定的評価は、平均91.4%であった。 ◎無言掃除に取り組む児童の様子や外国語活動の授業研究の様子、明王台小学校英語検定の様子など、重点取組を便りにして周知する。	4	4	□○2学期に実施した保護者アンケートの結果、「学校の取り組み」の5項目の肯定的評価は、平均92%であった。 「児童が学校ボランティアの方のお世話になっていることを知っている。」98% 「わが子は楽しく学校に行っている」96% 「校内は掃除ができている。」89% ○お便りや懇話会での周知により、「学校の特色ある教育活動のねらいを知っている。」が91%と4%上昇した。 ◎「学校での子どもの様子が分かる」が86%であった。今後も、学級で育ち上げること等、取組を学級通信や懇話会等で周知する。	4	4	4

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

[総合評価]

評価	基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった